

令和6年度第1回豊橋市健幸なまちづくり協議会生活衛生部会 議事録

- 日 時：令和6年10月7日（月）午後1時15分～午後3時25分
- 場 所：豊橋市保健所・保健センター 1階 第2会議室
- 出席者：豊橋市健幸なまちづくり協議会 生活衛生部会委員4名（欠席1名）

発言者	内容
事務局	資料1「豊橋市動物愛護管理推進計画の総括（案）について」の説明（7分程度）
B委員	豊橋市として、殺処分数は減ってきていますか。
事務局	数字を見る限りでは減ってきています。
B委員	その理由をどのように分析していますか。
事務局	猫については、引取り数が少なかったということはあるのですが、はっきりしたことは分析が難しいです。
B委員	保健所が努力して減ってきたと考えていますか。
事務局	保健所の努力だけではなく、市民の方の草の根的な活動も大きな力になっていると思いますが、どの活動が効果的であったのかといった詳細は分析が難しいです。
B委員	地域猫不妊去勢手術費補助金の予算額が400万円に増え、手術頭数も増えていきます。一方、1頭当たりの単価を増やしたこともあり、思ったほど手術頭数が増えていません。実際、予算額が増えてからの2年間も2か月ちょっとで予算枠が終わっていますが、どう考えているのか。現状では、補助金終了後、手術頭数が大きく減ってしまい、その結果として、新たな猫がまた産まれてしまっています。
事務局	受付ベースでは2か月ちょっとで予算額に達してしまうところはありませんが、その後の変更申請等で減額となった分をやりくりして補助金の申請を受け付けています。
B委員	予算がないと一度断られてしまうと、諦めてしまう人も多いです。補助率が満額に近い形となってからは、自費でやるのがもったいないという考えの人が増えたと感じています。補助金の予算終了後、ボランティアへの、地域猫の手術をやりたいけど費用がないからできな

	い、という相談が多いです。ボランティアに対する相談は年間で1,000件を超えており、そのほとんどは野良猫の問題。これを減らすための根本的な対策を考えてほしいです。
事務局	担当課としては、なるべく補助金も活用した形で、地域の活動を支援したいと考えています。早い段階で、補助金の受付が終了してしまいすぐに手術できないということについては、センターでの手術によりできる限り補っていきたいと考えています。
B 委員	取組みをしているのはわかりますが、現場で困っている人が多すぎるのが問題ではないでしょうか。何が原因と考えていますか。
事務局	一概にこれが原因と特定することは難しいです。
B 委員	保健所にもたくさんの相談があるはず。そもそも地域猫に不妊去勢手術をすることを知らない人が多すぎます。迷惑している声は多いけど、どうしたらいいかわからずに聞いてくる相談が多いです。ボランティアも疲弊しており、このままではボランティアが持ちません。動物愛護センターで市民ボランティアの募集をしてほしいと言ってきていますが、具体的にどう考えていますか。
事務局	ボランティアの募集は必要と考えています。ただし、ボランティアの活動内容として、野良猫の相談、捕獲というものは現時点では検討の中には入っていません。
B 委員	必要ないという認識なのでしょうか。
事務局	必要ないということではなく、その活動を保健所が積極的にやるべき活動なのかということもあり、現時点では考えていません。
B 委員	捕まえるということだけではなく、対応できる人が必要です。
事務局	今後活動の経験のある方に話を聞きながら、一緒にやっていけることがあれば協力をお願いすることはあり得ますが、そこまでの具体的な検討には至っていません。
B 委員	現場に確認に行っている職員も1～2人程度だと思うので、この人数をもっと増やすべき。申請にも時間がかかるという声も聞ききます。補助金の交付決定後も、初めての人、特に高齢者だと捕獲も難しいし、やり方もわからない、という人が多いです。そういったところ

	で、保健所と現場の間に入ってサポートする人が必要です。現状ではボランティアがそこに入っており、動物愛護センターの整備を契機に、市民と組んでやれるような流れにしてほしいです。
事務局	活動する方の想いが必要であり、やれることはご自身でしてほしいです。ただし、行政が募集するボランティアかは別としても、間に入ってサポートをする方は必要だと思うので考えていきたいです。
B 委員	そのような人がなかなか見つからないから、早めに募集して養成していく必要があります。それができないなら職員を増やしてほしいです。活動にあたって責任も生じるので、全てボランティアというのも無理があります。手術頭数も、ボランティアとして実施する数とサポートとして関わる分を合わせると、年間 900 頭ほどになり、ボランティアの負担が大きいです。はっきり言って、殺処分が減ったのはボランティアが動いているからだと思っています。こんなに頑張っているボランティアは全国を見てもいません。
部会長	動物愛護センターでの不妊去勢手術までの搬入ルートをどのように計画していますか。動物愛護センターで対応する場合、相談した人が捕獲器を借りに来て、自分で捕獲し、動物愛護センターへ搬入するというのか、それとも愛護団体からの搬入を想定していますか。
事務局	地域猫の相談があった方には、捕獲器を貸して捕まえた猫を持ち込んでもらう想定としています。捕獲等のノウハウがない人に対して、アドバイスできる方は必要と考えています。
部会長	捕まえるのはできない、と申請前の段階で断る方はいますか。
事務局	そこまで多くはないと思うが、一定数はいます。
部会長	人の手を借りてやるならいいけど、自分でやるならやらないという考え方の人もいます。ボランティアの必要性を認識して、行政もネットワークづくりに励んでほしいです。
事務局	しっかりと考えていきたいです。一方で、やる気のない人に押し付けてやっても続かないという面もあります。
部会長	市民は困っているから相談しているのであり、その前提は、その猫を何とかしてほしいという要望。「捕まえて連れてきてくれれば増えないようにする」と説明すればいいのではないのでしょうか。手が足りな

	ければ「捕獲器を設置して捕まったら連絡してください」と対応してもいいのではないのでしょうか。
事務局	ケースバイケースで考えるべきところであると思います。
B 委員	捕獲器を貸しても使い方がわからない高齢の方が多いです。実際、エサをあげているのも高齢者が多いです。それで捕獲ができなくなると、放り出してしまうことも多いです。補助金の申請用紙を取りに行けない、記入の仕方がわからない人などもいるので、そういうところで申請の手伝いをする人が必要です。一番言いたいのは周知啓発が圧倒的に足りないということ。地域猫に手術することの必要性などについて、自治会長も知らないことも多いです。動物愛護センターでは周知啓発をしっかりとすることがベースだと思っています。
事務局	地域猫の補助金の手続きや、猫を捕獲すること、猫の数を減らすことへの対策も大事ですが、市民が理解し、トラブルの起こらないまちをつくるのが根幹。動物愛護センターを機に一緒になって、市民に理解してもらえそうな活動をしていきたいと考えています。
B 委員	理解してもらうことが、まず基本になります。ボランティアが手術して譲渡するという活動が必要なくなり、ボランティア自体が不要になるのが最終的な目標。実際、負担が大きく活動をやめるボランティアもあり、このままでは豊橋にボランティア団体がなくなるかもしれないので、動物愛護センターができるのを機会に、ある程度動けるようになってほしいです。
部会長	動物愛護センターに 100 を期待してもそれは無理だと思っています。動物愛護センターの獣医師は手術経験がなく技量もないので、最初から多くの手術数を行うことは難しいです。だんだん慣れて、技量が上がって数が増えていくのが現実。半分やってくれたら儲けもの、くらいの気持ちの方がいいと思います。消毒から麻酔、そして覚醒するまでに 2 時間以上はかかります。助手も必要になります。他の動物愛護センターの手術頭数は、キャリアを積んだ人の話であり、初心者が手術するのとは違うので、理解してあげる必要があります。
B 委員	人事異動もありますが、その場合はどうなるのでしょうか。
事務局	職員が総入替えになるということはまずありません。元から所属している人が新たに配属された人に教えて、みんなのできるようにしてうまく循環するようになりたいと考えています。

B 委員	人数はどの程度になりますか。
事務局	現時点で人数は言えません。現在、動物愛護グループでは獣医師が5人で、これを下回ることはないと思います。人事異動を止めることはできませんが、公共としてサービスの持続性、継続性、質を維持できるよう配慮しながら取り組んでいきたいです。
部会長	動物愛護センターも長く配属されるようにできませんか。
事務局	市の職員として採用している以上、異動はあるものです。
B 委員	異動のない枠として、特別枠での採用はできませんか。
事務局	あくまで市職員として採用しているため難しいです。
B 委員	非常勤として雇用することはできませんか。
事務局	そういう体制で考えるのであれば、できなくはないのかもしれませんが、非常勤の方が手術できるか、責任の問題も含めて整理が必要です。現時点では、うまく異動できるようにして、最終的に多くの獣医師が手術経験のある状態にすることが望ましいと考えています。
B 委員	動物愛護センターでの手術数は、最初はたくさん見込めないのでしょうか。
事務局	最初からということは難しいです。手術の件数だけでなく、終生飼養など市民の理解を深める取組みもしっかりとやっていきたいです。
B 委員	市民の理解も深める啓発活動もしっかりしてほしいです。高齢者の問題も大きく、相談が多い事項です。最近では、包括センターやケアマネージャーからも直接の相談が多くなっています。全国で直面している問題でもあり、取り組んでほしいです。このような相談は、まず保健所で受けてほしいです。
事務局	宿題として考えていきます。現場で起こっていること、わからなかったことがたくさんあるので、そういう情報を交換し、よりよい施策へつなげるため、今後も意見交換しながら取組みを考えていきます。
C 委員	昨年度、ペット同行避難訓練を自治会として初めて実施しました。その時、大きな犬を連れてきた人がいましたが、避難所生活が長期にわ

	<p>たる場合、大型犬を身近で飼うことができない事態も想定されます。動物園や保健所である程度の期間預かってもらうことはできないのでしょうか。11月3日にも訓練があります。その場で質問が出ると思われるので教えてほしいです。また、爬虫類を飼っている人もおり、周囲の人に迷惑が掛からないか心配です。</p>
事務局	<p>大型犬に限らず、現時点で一時預かりをしない想定のため、飼い主にあらかじめ考えておいてもらう必要があります。保健所を最初から頼りにするのではなく、自助として、あらかじめ親戚やペットホテルなど、預かり先を探してほしいです。ただ、過去の経験から見ると、どうしても必要なケースもあります。能登半島地震では、県・全国の獣医師会などがトレーラーハウスを準備した事例もあるので、そういったことは考えていく必要があると思っています。最近では、同行避難という言葉が独り歩きしている部分もあります。大切なのは、動物と一緒にまず安全な場所に避難しようという考え。建物の被害が少なく、動物が過ごすのに支障がないようであれば、動物だけ在宅で飼育するというケースもあり得ます。行政としても、保健所で無理であっても、協定を締結して支援先を探すなど考えていきたいです。</p>
事務局	<p>資料2「豊橋市動物愛護センター（仮称）での取組み（案）について」の説明（3分程度）</p>
B委員	<p>豊橋の動物愛護センターの、ここは力を入れているなど、他にない特徴はありますか。</p>
事務局	<p>豊橋だけではありませんが、施設内に地域猫保護室があり、自前の職員が手術するというのは大きな特徴であると考えています。</p>
B委員	<p>地域猫保護室とはどのような部屋でしょうか。</p>
事務局	<p>手術室と一体となっている部屋です。地域猫手術専用の部屋があります。</p>
B委員	<p>外から見えますか。</p>
事務局	<p>見える場所ではありません。</p>
B委員	<p>地域猫の手術をする動物愛護センターも増えています。それを強く要望してきて、受け入れてもらってありがたいです。すぐにたくさんと言いません。とはいえ、ある程度の手術数をしてほしいという思い</p>

	<p>はあります。ボランティアとしても、やれることはやるが不安が大きいです。なかなか全体像が見えないし、具体性がない部分も多いです。どう動けばいいのか、それとも動かなくていいのか、職員が増えるのかもわかりません。</p>
事務局	<p>人員要望として、動物愛護センターで実施する活動に十分な体制を確保できるよう要求しており、実際には年明け、3月に決まってきました。今日の話の内容を受けて、もう少し中身を詰めて年が明けてから、意見交換等を経てもっと練り上げていきたいです。</p>
B 委員	<p>現場を一番知っている人の意見を聞いてほしいです。これまではそういう体制がありませんでした。動物愛護センターができただけで終わらないようにしてほしいです。</p>
事務局	<p>そうならないようにしていきたいです。</p>
部会長	<p>ローマは一日してならずということわざもあるように、様子見しながらみんなで一歩ずつ前進して改善していき、砂上の楼閣にならないように努力してやっていくかなと思います。</p>
B 委員	<p>全国にはそういうところもあります。市民の要望と現状がかけ離れているところもあります。それを踏まえて準備していくのには時間がかかることだと思うので、もっとスピード感があってもいいのかなと思います。</p>
事務局	<p>新しいことをやるので、壁にぶつかる、新たな問題が発生すること等は想定されます。まだまだ知らない現場の意見を聞きながら、1つ1つ課題解決して前に進んでいきたいです。引き続きご意見賜ればと思います。</p>
B 委員	<p>行政間でも他の動物愛護センターにもいろいろ聞いてほしいです。失敗例も教えてもらえるし、内々の数値を聞けることもあります。特に失敗例は役に立つと思います。</p>
部会長	<p>動き出してから現場の意見として聞き入れてもらうようにしてほしいです。時には、現場の人を連れてくることも必要かもしれません。ネットワークを構築し、お互いに話し合って協調してほしいです。お互いを突っぱねてしまうと砂上の楼閣になりかねません。そうになってしまうと、市民に貢献できない施設となってしまう、そこで働く職員も悲しいと思います。動物愛護センターのおかげで住み</p>

	よいまちづくりができていると市民が実感を受けられる施設にできるよう、頑張ってもらいたいです。
事務局	報告資料「豊橋市動物愛護センター（仮称）工事の進捗について」の説明（1分程度）
部会長	開所は令和7年秋ということで、ちょうど1年後ということですか。
事務局	そのとおりです。
B 委員	職員の人数は増えそうですか。
事務局	増やす方向に要求していますが、どうなるかはわかりません。
B 委員	中にいるだけでなく、外に出る人も増やしてほしいです。住民と接触し、問題解決に取り組む人を増やし、どうしたらやれるかを一緒に考えてほしいです。現場が一番よく知っており、協力できることもあります。
A 委員	殺処分頭数は公開していますか。
事務局	環境省が公表しています。現在公開されている最新のは令和4年度で、12月から年明けごろに令和5年度分が公開されると思います。
A 委員	今日の数字は外に出してもいいものですか。
事務局	問題ありません。